The report of

WORKCAMP in PANGPANG

Spring 2023

国際感覚を身に着けた次世代(青年)を西尾市の未来へ

西尾市青年国際ワークキャンプ派遣事業とは

世界の地域課題に対し、現地の住民と共に活動する合宿型のボランティア(国際ワークキャンプ)に、西尾市内の青年を派遣することで、派遣先国の青年と共に活動しながら交流、切磋琢磨することを通じ、将来の西尾市を担う豊かな国際感覚を身に着けた青年を育成することを目的とした事業です。

中村(なかむら) 健(けん)
西尾市長

「西尾市青年国際ワークキャンプ派遣事業」は本年度が最初の派遣であり、派遣された8名の団員は、新たな可能性に挑戦し、貴重な経験ができたことが帰国報告のひと言ひと言から伺えました。

国際化の時代においては、語学を身に付けることも大切かもしれませんが、自分の常識や当たり前が通用しない世界を経験し、視野を広げることもとても大切です。今回のワークキャンプを通し、ひと回りもふた回りも成長することで、仕事やプライベートでその経験を活かすとともに、西尾市における多文化共生推進にも一役買ってくれることを大いに期待しています！

派遣期間

2023年2月18日(土)～27日(月)　計10日間

派遣先　フィリピン共和国 Cebu(セブ)州 Bariri(バリリ)市 Pangpang(パンパン)村

活動地は、セブ市内から車で３時間ほど移動した山間部。
日本人にはあまり認知されていない、自然豊かなローカルエリア。
携帯の電波は届かず、有料のWi-Fiスポットの利用が必要。

活動内容

- 小学校での日本文化を紹介する授業
- 畑での草取り及び収穫作業

宿泊場所

村事務所をボランティアハウスとして、持参した寝袋に就寝。
食事はホストマザーによるフィリピン家庭料理。

1期生 団員名簿　※五十音順

- 石川(いしかわ) 葵(あおい)　〈大学1年〉
- 石川(いしかわ) 晴己(はるき)　〈大学2年〉
- 石川(いしかわ) 姫奈(ひな)　〈大学4年〉
- 団長 岩瀬(いわせ) 駿祐(しゅんすけ)　〈大学2年〉
- 関角(せきずみ) 都子(とこ)　〈大学3年〉
- 田中(たなか) 美空(みそら)　〈大学1年〉
- 松井(まつい) 紗花(すずか)　〈大学1年〉
- 山﨑(やまざき) 晴大(せいた)　〈大学2年〉

引率

- 稲吉(いなよし) 崇文(たかふみ)　西尾市 市民部 地域つながり課
- 井口(いぐち) 育紀(やすのり)　特定非営利活動法人NICE

事業スケジュール

出発前	11月1~30日	申込・選考(書類/面接)
	12月9日	事前研修 ①
	1月13日	事前研修 ②

公式Instagramの紹介

現地での生活をInstagramで紹介しています！
@nishio_workcamp

		午前	午後	夜
1日目	2月18日		中部国際空港 出発 セブ空港 到着	セブ市内ホテル 宿泊
2日目	2月19日	セブ市内 散策	Pangpang村へ移動	Pangpang村 散策
3日目	2月20日	小学校授業 見学	Bariri市長 訪問 畑作業	フィリピン文化体験
4日目	2月21日	モーニングセレモニー 畑作業/小学校授業 準備	小学校授業	自由時間
5日目	2月22日	モーニングセレモニー 畑作業	小学校授業	日本文化体験
6日目	2月23日	近郊観光(フリーデー)		
7日目	2月24日	畑作業	お別れパーティー 準備	自由時間
8日目	2月25日	スポーツ交流	お別れパーティー	
9日目	2月26日	掃除/Pangpang村 出発	セブ市内 散策 セブ空港 出発	マニラ空港 到着 マニラ空港内 ホテル宿泊
10日目	2月27日	マニラ空港 出発 中部国際空港 到着/解散		

帰国後	3月3日	事後研修・帰国報告会

小学校での授業
volunteering at the school

折り紙、けん玉、空手、ジェスチャーゲームなど。外国人と触れる機会がほとんど無い子ども達は、全てのことに積極的に参加してくれました！日本とは全く違う環境下での教育現場はとても新鮮で、子ども達に会う度に、元気と驚きをもらえました！

折り紙先生！

教室で集合写真！

手裏剣！

新聞紙乗りゲーム

教室の様子

畑作業
volunteering in the field

作業は、朝早くから暑くなったら終わり。村人共同で野菜を作っているところが、本当に村が家族のようでした。草取りの道具ですら、日本では全く違う形でした。日本の方法を紹介するため、道具を持って行けば良かったと思いました。

みんなで草取り

サツマイモ堀り

苗植えの準備

畑で記念撮影！

とある1日の過ごし方

7:45	**モーニングセレモニー** 小学校で日本のラジオ体操
8:15	**朝食・片付け** 毎朝ホストマザーが美味しい料理を作ってくれました！
9:00	**畑作業** 草取りやサツマイモ堀りのお手伝い
12:00	**昼食・片付け**
13:30	**小学校での授業** 小学校まではボランティアハウスから徒歩3分
16:00	**フリータイム** ボランティアハウスの周りには、常にたくさんの子どもたち
19:00	**夕食・片付け** **振り返りミーティング**
20:00	**フリータイム** 村の人たちとバスケットボールやビデオケ(カラオケ)をしたり、お酒を飲んだり

日本文化体験
Japanese culture night

から揚げ、カレーライス、お好み焼き、そして皆でロング巻き寿司を作りました！夏祭り体験では、輪投げやスーパーボール入れ、釣りゲームに行列が出来て大盛況！そして、遠慮がちだった大人の女性陣も、浴衣体験には目の色を変えてとても喜んでくれました！

浴衣着付け体験

輪投げ体験！

空手体験！

ロング巻き寿司作り！

大集合写真！

フリーデー
Free day

現地の人に案内してもらい、みんなで1日観光しました。Pangpangとは違うフィリピンの景色。山の上からみんなで見た絶景は忘れられません。

滝の前で！

ビーチで！

絶景で！

軽トラの上で！

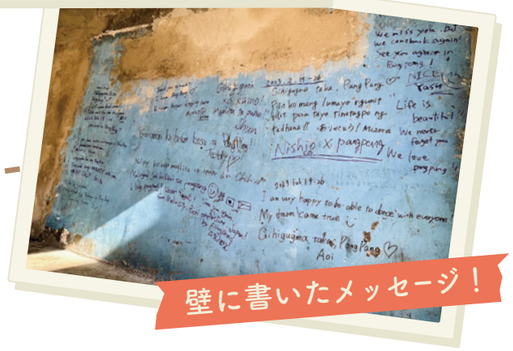
現地の生活
lifestyle

日々の生活を、日本の日常とは全く違う、現地の人と同じ環境で過ごします。これは、きっと観光ではなかなか経験出来ないと思います。

キッチン！

食器洗い！

夜の振り返りミーティング！



壁に書いたメッセージ！

現地の生活
lifestyle

いしかわ　あおい
石川　葵

20歳までに海外へ行く夢を叶えるために参加。
ダンスやイラストが得意。

文化を知ること

フィリピンに着いたばかりの頃は、文化の違いに一つ一つ驚いては、新鮮な気持ちになっていました。

１日目の夜、ホテルに向かう車の中からセブの街並みを眺めて、日本ではあり得ない光景に終始圧倒されていました。車の横すれすれを２,3人乗りのバイクが通り過ぎていく度に、事故しないかヒヤヒヤしました。あちこちに人だかりができていて夜なのに賑やかだったり、犬は当たり前のように道を歩いていたりして、なんだかとんでもないところに来ちゃったなと呆然とした覚えがあります。同じ地球でもこんなに違うのか、日本とそう遠くない国でもこんなに文化が違うのかと思い、日本って狭いなと気づいた衝撃的な体験でした。

しかし、日本でもお馴染みのチェーン店をいくつか見付けました。日本語が書いてある看板もあってホッとしました。同じアジア圏ということもあり、どこか似たような空気を感じる部分もありました。

２日目の散策で昼間の明るい街を歩いて、ようやくフィリピンの空気に少し慣れて安心したところで、今度はセブからPangpangまでの道中、どんどん山奥に入っていくのを見て、また不安になりました。舗装されていた道も徐々にガタガタの山道になり、途中で電波も繋がらなくなったので、想像以上にハードな生活が待っているぞと覚悟しました。

実際に村に足を踏み入れてみたら、思っていたよりも恐ろしい場所じゃなくて、あたたかく出迎えてくださったおかげでとても安心しました。

Pangpangの村の人たちはとても明るくて、誰とすれ違っても笑いかけてくれたのが印象に残っています。一人で歩いていると誰かしらに声をかけられて、家に招き入れられたり、子どもたちにフェンスの向こうから名前を呼ばれたり、ただ歩いているだけなのにどんどん新しいことが起こっていくので、一人な気がしませんでした。

日本との文化の違いにも驚かされましたが、同じだけ日本と変わらないところもたくさんあって、それが私にとってはとても印象的でした。

はじめに、スポーツのルールや数字の表記はどこでも共通だと気づきました。よく考えれば当たり前のことだけれど、それまで自分の話す英語があっているか不安だったことで疑心暗鬼になっていたので、自信をもって正しいと信じられるものを見つけて安心感を覚えました。

人柄も異なる部分はあれど、日本人と変わらないなと思うこともたくさんありました。子どもはみんな元気いっぱいで好奇心旺盛。でも、よく観察すると大人しい子がいたり、マイペースな子がいたりと、日本の小学校のクラスと同じ雰囲気を感じました。授業も算数で掛け算を覚えたり、高学年では歴史を学んだり、日本と同じようなカリキュラムでした。

反対に食べ物や生活スタイル、服装は、より文化の違いを感じるポイントでした。特に、食べ物は毎食違う料理を作ってくださったので、見たことのない食材や日本にはない味に何度も出会いました。それでも、みんなでひとつのテーブルを囲んで同じ食べ物を食べながら会話をして楽しむのは同じで、毎回とても楽しかったです。外で食べていたので上に空が広がっていて、世界は繋がっているんだなとぼんやり感じていました。それを繰り返しているうちに、は

じめて訪れた場所なのに、いつのまにか人柄も生活もずっとここに住んでいたかのように、いろんな違いを受け入れていきました。

Pangpangで生活したことで、私は「外国人」という概念は自分が勝手に頭の中で生み出していただけにすぎないと知りました。美味しいものを食べたら自然と笑顔になって、みんなで肩を組んで歌うと一体感が生まれて、別れを悲しんで涙して、フィリピンにも日本と変わらない人の営みや、喜びや幸せのあり方が存在しました。フィリピンのことをまったく未知の世界だと思っていたわけでも、フィリピン人を宇宙人か何かだと思っていたわけでもないですが、実際に目の当たりにして同じように生活してみて、ようやく気付くことができました。生まれた国が違えば各々ルーツは違うけれど、それだけで「外国人」という壁を作るのも、距離がうまれるのも勿体無いなと思うようになりました。

今まで西尾市にいくつかある外国人の方が経営するブラジル系の精肉店やアジア料理屋の横を通るとき、外から眺めて少し警戒していましたが、今はどんなところか一度入ってみたいという興味にかわりました。外国人が集まって夜遅くまで盛り上がっているのを見つけても、それが彼らの文化だとわかった今では、恐れる気持ちも無くなりました。

今回の派遣を通して、こうやってひとつずつ自分とは違う人(性別なり国籍なり、年齢なりあらゆるものを含めて)がいることを見て学んで理解しようとすることが、多文化共生の鍵となることを実際に体感して学びました。

いしかわ　はるき
石川　晴己

初めての海外を肌で感じるために参加。
趣味は、お笑い鑑賞。

フィリピンでの印象的な出来事と、そこで思ったこと

僕が今回の派遣に申し込んだ第一の理由は、「一度も行ったことのない海外に、事前準備のことなど色々教えてもらった上で行ってみたかった」という単純で安直なものだったが、フィリピンでの10日間を終えて帰国した今、ワークキャンプという形態のものに参加して本当に良かったと思っている。それは、とてつもなく多くの経験を得られるからという理由が大きいが、その経験を個人的には生活面と人との交流の２つに分けられる。

生活面では、現地での生活を通じて人間としてタフになったと思う。例えば、現地の子どもと一緒に裸足でバスケットボールをしたり、ビーチサンダルごと水たまりにはまって泥が付いたりしても、後で洗えばいいかと思えたことや、使った食器を、飲めないであろう水で洗ったり、シャワーは頭から水をかけるだけだったりという経験を通じて、僕の中の「しんどい」「きつい」の基準は間違いなく変化し、忍耐力や楽観的な思考が身に付いたと思う。他にも、ベトナムで経験した片側三車線路の中央の車線で信号待ちをしているバスに乗るなんて、日本ではとんでもないことだったと帰国してから気付いた。

人との交流では、海外の人々と深く関わる経験ができたというのも大きな収穫だった。旅行であれば“オチョオチョ”のような全く知らない歌に合わせて踊ることも、名前を覚えてもらうことも、イス取りゲームをすることもなかったと思うので、ワークキャンプだからこそ得られた貴重な経験だったと思う。この経験を通じて、日本人が外国人に対して偏見を持つことが多いのは、単に仲良くなった経験が足りないからだろうと考えた。主にビサヤ語を話す彼らと話している時には「きっとこの世界の共通言語は“英語”じゃなくて“笑顔”だと思う」という歌詞の歌を何度も思い出した。

フィリピンの滞在で強く心に残っているのが、都会、田舎、田舎の山の頂上など様々な暮らし方や生き方があるが、運転や買い物、お酒などに関して大胆だったということだった。このことから周りの目を気にしたり、周りのせいにしたりするよりも、自己責任で色々なことをやった方が、いい人生になるということを学ぶことができた。また、周りのメンバーからも大きな刺激を受け、10日間の共同生活で、自分の好きなことを披露するなど、自分のありのままを話すことが少しだけ得意になった。

いしかわ　ひな
石川　姫奈

海外の教育に興味があり、参加。
趣味は、映画鑑賞。

フィリピンと日本の文化の違い

私は2月18日から2月27日までの10日間、フィリピンに行かせていただきました。2日目からPangpangというワークキャンプの拠点に移動し、活動がスタートしました。海外でのボランティア活動に参加することは初めてだったので、ワークキャンプ中に体験したこと中心に書いていきたいと思います

Pangpangについた初日は、期待でいっぱいでしたが、これから生活する建物に到着し、説明を受けた後はこれから約１週間ここで生活できるのだろうかという不安でいっぱいになりました。なぜなら、日本と生活環境がかなり異なっていたためです。トイレは日本のように流すことは出来ず、自分で便器の中に水をいれて流さなければなりません。お風呂もシャワーやバスタブはなく、自分でドラム缶から桶で水をすくってかけるという水浴びスタイルです。もちろんお湯がでることはありません。

また、電波は入っておらず携帯は常に圏外でした。有料のWi-Fiスポットに接続すると時間限定で利用することができましたが、不安定なことも多かったです。そんな環境に戸惑いました。

しかし、私たちが着いた途端たくさんの子どもたちが私たちのもとにやってきました。英語はほとんど通じず、子どもたちが話していることはまったくわかりませんでしたが、自己紹介をしあったり、ハイタッチをしたりすることですぐに仲良くなることができました。

それからPangpangでの活動が本格的にスタートしました。まずは小学校に訪問し、日本語や日本の文化を紹介しました。２人ずつのグループに別れてそれぞれ担当する学年を決め、用意してきたものを紹介していきました。

私は折り紙を使って手裏剣の作り方を紹介しました。３年生のクラスで行いましたが、少し難しかったみたいで説明がとても大変でしたが、子どもたちがわからない所があると私の名前を呼んで、これで正しいのか何度も確認してくれたのでスムーズに進めることができましたし、子どもたちの積極性がとても嬉しかったです。

他にも紙飛行機を作りました。紙飛行機は知っていたのか、私たちが教えた他に自分なりの折り方で折っている子もいました。小学校に行く機会はまだあり、別日には新聞紙ゲームという王様ジャンケンをして、負けた人は自分たちの乗っている新聞紙をどんどん小さくしていくというゲームを紹介しました。どの子もとても負けず嫌いで、すごく小さくなっても上手に協力して新聞紙の上に乗っていました。乗れなくなってしまったときにはとても悔しそうにしていて「もう一回！」と言っていました。簡単にできるゲームをもっと用意しておくと何種類も楽しんでもらえることがあったので、あらかじめたくさんの引き出しを用意してから行くともっと楽しんでもらうことができたのではないかなと思いました。

また、空手を一緒にしました。Pangpangの子どもたちは体を動かすことがとても大好きで、嬉しそうに一緒に空手の練習をしていました。

私は大学で教育学部を専攻しています。教育実習で小学校に行った際は、放課時間に外で遊ぶ児童がとても減っていました。私が小学校で働くことになった時には、楽しく体を動かしてもらえるように他の国の伝統的なスポーツを取り入れてみたり、日本にはあまりなじみのなさそうなダンスを調べたりして、体を動かすことのできる機会を増やせるようにしたいです。

小学校以外の活動では、畑に行って野菜の収穫をお手伝いしたり草取りをしたりしました。基本的に女性が農作業をしていました。てこずっている私たちにこうやるのだよと見本を見せて下さりました。また、これをやってみなよと私たちに積極的に経験をさせてくださり、Pangpangの住民は本当にあたたかかったです。

活動としては小学校と農作業がほとんどでしたが、夜には一緒にカラオケをしたりダンスをしたりスポーツをしたりするなど、たくさんの時間をPangpangの方々と過ごしました。Pangpangは本当にフレンドリーな村でみんなが家族のような雰囲気でした。私は、引きこもりがちで家でだらだらと過ごすことが一番だと考えていましたが、誰かと語り合ったり踊りあったり体を動かしたりする楽しさに気が付きました。これからは積極的に外に出て友達や家族それ以外の人とも交流していきたいなと思うようになりました。Pangpangで経験したことをこれから自分の将来に活かしていきたいし、西尾市に貢献していけるようにしたいです。とても充実した10日間でした。

岩瀬（いわせ） 駿祐（しゅんすけ）

現地ではどんな生活なのか
実際に体感したく参加。
趣味はドライブ、特技は弓道。

「暮らしのしあわせ」の形

初めての海外で、生活面やコミュニケーション面での不安がありました。しかしながら、現地の方々はとてもフレンドリーで親しみやすく、私たちを家族のように迎え入れてくれました。彼らと交流しながら、異なる文化や環境について多く学ぶことができました。

現地ではフィリピン料理を多く食べることができて食文化にも触れることができました。食事の際は、ご飯やおかずをみんなで取り分けて、シェアして現地の人々と一緒の食事をすることで、彼らの生活や文化をより深く理解することができました。特にココナッツを丸ごと食べられたことが心に残っています。日本文化紹介では小学校で折り紙やけん玉などを体験して、直接日本文化に触れることができ、とても楽しそうにしていました。

現地でやれることは100％出せれたと思うが、準備段階での反省点があったと感じました。また日本の食文化も体験してもらうため、お好み焼きや巻き寿司、唐揚げ、カレーをメンバーで作り、地域の方々に味わっていただきました。その時の喜んでくれた顔は今でも鮮明に覚えています。現地でメンバーと日本食を作っている際、メンバーとのきずながより深まっている気がしました。同じ目標にみんなで分担していると必然的に絆が深まるのではとその時考えました。日本文化紹介は現地の方々との交流を深め、相互理解を深めることができたと思いました。

現地の方々が踊ったり、歌ったりするのが大好きで、年齢問わず一緒に楽しみました。現地の方々と一緒に踊ったり、歌ったりすることは、言葉を超えたコミュニケーションの一つだと感じました。日本人はシャイな部分があるとよく言われ、僕もシャイな部分がありました。なので最初は、踊ることさえ抵抗がありましたが日々生活するにつれて自分から話しかけるようになり、自分の中での変化を感じることができました。

今回のワークキャンプでボランティアの価値観が変わりました。今までボランティアは助けに行くなどの上からの目線がありました。しかしながら一緒に暮らし、生活を共にした今回のようなボランティアもあることを知り、他のボランティアへの興味が湧いてきました。

日本とフィリピンの文化や生活習慣は異なりますが、その中で人々が幸せを感じることは共通しています。自分たちの生活や文化を大切にしながら、お互いに理解し尊重することが、多文化共生社会を築く上で大切なことだと思いました。

今回のワークキャンプで、異文化と接し、多様な価値観や考え方を知ることができ、自分自身の視野が広がりました。これからも、国境を超えて人々が互いに理解し、共に生きることができるよう、自分自身が積極的に異文化に触れ、その違いを尊重し理解することを心がけたいと思います。

せきずみ　と　こ
関角　都子

海外の教育現場を見たく、参加。
趣味はライブ、サッカー観戦。

新型コロナウイルスの流行によって、大学生活に様々な制限があった。部活動では合宿や打ち上げを開催できなかったし、異文化理解を目指し海外に行く授業もなくなった。海外旅行に行くにも大きな壁があった。そんな風に、海外に行くことを諦めかけた大学生活だったけれど、この派遣事業に参加できた私だからこそ体験できたことをまとめます！

シャワーのないお風呂・自動で流れないトイレ

桶で水をかぶって体や頭を洗う。当たり前に冷水で、夜のお風呂は本当に寒かった。ちなみに、お風呂場とお皿を洗う場所は同じ所。トイレは、紙が流せない。

軽トラの荷台に乗って移動

マーケットに食材の買い出しに行ったり、観光地を巡ったりする移動手段は軽トラ。荷台に立って風をうけ、舗装されていない凸凹道を通る時は、ほぼアトラクションでテンションup⤴

海外で授業

折り紙で飛行機や手裏剣を一緒に作ったり、ジェスチャーゲームをしたり。日本の名所を写真で紹介したり、昔話を英語で読み聞かせしたり。

浴衣の着付け

西高音頭という高校の伝統のおかげで、スムーズに着付けできた。男性も女性も、浴衣を楽しんでくれた。

ココナッツジュースの直のみ

意外にココナッツジュースの量が多くて飲み切れず、実を割って中のココナッツの果肉を食べられなかったのは少し後悔。

ビサヤ語の習得

現地の主要言語はビサヤ語。一瞬戸惑ったけれど、見よう見まねで使ってみたら反応してくれてすごく嬉しかった。ビサヤ語を話せる日本人なんてそういないでしょ!?

例）ありがとう ＝ Thank you ＝ **Salamat (サラマー)**

美味しい ＝ yummy ＝ **lami (ラミ)**

日本料理でのおもてなし

自分たちで作った日本料理(海苔巻き・カレー・からあげ・お好み焼き)をふるまった。調理中、アテネネ(ホストマザー)が心配そうに見守っていたけれど、無事成功！ただ豚肉を薄く切れず、剥がれ落ちてしまったお肉を”食べ盛り少年”に狙われ、お好み焼きの生地を残して肉だけ食べられた(悲)

現地の人とお酒を飲む

Pangpangの夜は、途切れることなくずっと音楽が流れていて、子どもも大人も一緒に踊る。あっっまいテキーラみたいなお酒やアップルティーみたいなお酒、もちろんビールもたくさん飲んだ！

現地の人のサインを貰った

Pangpangで過ごす最後の夜、写真と一緒に名前をノートに書いてもらった。ビサヤ語は、私にとって聞き取ることも発音することも難しかった。子どもたちは私の名前をたくさん呼んでくれたが、子どもたちの名前は中々覚えられず名前を呼んででであげられなかったので、もっと早く書いてもらえばよかった。

現地の壁にメッセージ

Pangpangの地で生活したことを形として残せた！次訪れた日本人に思い出を塗り替えられませんように。

オーバーブッキングでプレミアムエコノミー席獲得

セブからマニラまでのフライト。隣に座ったマッチョな男の人と何気なく会話したけれど、有名な方だったみたい。写真撮っておけばよかった！機内食はサンドイッチだった！ (みんなは、豆？のスナックだったみたい)

新しい友達

一緒に派遣に参加した団員はもちろん、現地で合流した日本人の子やドイツ人の子とも仲良くなれた。現地の、中高生や大人とはＳＮＳでつながっていて、連絡を取っている。

たなか　みそら
田中　美空

異文化で暮らす子どもと触れ合ってみたく参加。
趣味は推理小説、特技はバレエ。

幸せの形

一番初めに寝袋持参という文字を見たときに、どれだけ過酷な環境に行くんだろうと感じました。事前研修の際、トイレのことやシャワーのことを聞いた時はとても衝撃的で、現地の人はどんな風に過ごしているんだろうと、漠然と思うと同時に少しだけそんな環境に住んでいることを可哀想だとも感じていました。

しかし、実際にPangpangで現地の方と同じ生活を送り、現地の方と触れ合ったことで、私の考えがすごく変化しました。Pangpangの子どもたちはもちろん、大人たちの笑顔をみて私の考える幸せの形が変わりました。Pangpangの人はこの生活が当たり前であって、幸せであって、勝手に可哀想だとか、幸せじゃないと決めつけるのは絶対に違うことだと思いました。

日本のように生活が便利であっても、Pangpangの人のような幸せを手に入れることはできないと感じました。

西尾市はとても外国人が多い市です。しかし、まだ外国人に対する偏見は今でも消えていないと思います。なので、私は今回の経験で得た考えをたくさん

の人に伝えて、西尾市に住む、少しでも多くの外国人が過ごしやすく親しみやすい市になるといいなと考えています。たくさんの人が言ってくださったように、派遣はこれだけで終わりではないので、これからも市のためにたくさん何かできたらいいなと思います。

持って行って良かったもの

- 洗濯ロープ
- 虫除けスプレー
- 日焼け止め
- ハサミなど文房具
- 折り畳みハンガー
- トイレットペーパー
- ウェットティッシュ

持って行けば良かったもの

- 乾きやすい服やタオル
- 日本の写真を大きくプリントしたもの
- モバイルバッテリー

まつい　すずか
松井　紗花

自分の経験値を上げるため、参加。
趣味はドライブ。

Pangpangの生活

現地での活動は、ほとんど地元の小学生たちと触れ合った。みんな無邪気で日本人の私たちに興味を持ってくれた。小学校の授業を先生に代わって私たちが行う機会があった。そこでは子どもたちに少しでも日本の文化に触れてもらうことを目標に、折り紙で紙飛行機やしゅりけんを作って遊んだり、日本の昔話の絵本を読み聞かせたり、数字の読み方を教えたりした。授業以外でもバスケットボールをしたり、現地語であるビサヤ語を子ども達から教えてもらった。わからないこと疑問に思うことがあるとすぐ私たちに尋ねるところは、人見知りの私にも勉強になったし、多くの笑顔をもらった。

トイレやお風呂場は団員全員で共有しあって生活していた。お風呂場は、皿洗い兼服の洗濯場でもある。もちろんお湯は出なく夜のシャワータイムは団員同士で「寒奉行だ！」と言いながら入った。この経験は今回のワークキャンプの中でもかなり思い出に残っている。日本では経験することのないこの環境を経験できた私たちは、もし大地震の災害があったら役立つと思った。私にとっては非日常だったため毎日ワクワクだった。

毎日の食事は村の住人が朝昼晩欠かさず美味しい料理を作ってくれた。そのおかげでフィリピンの家庭料理を色々経験することができた。行く前は現地の料理が自分の口に合うか不安だったが、どれも初めて味わう味だったが本当に美味しくて、毎日体調を崩すことなく健康に過ごすことができた。村以外で過ごした時も同じものばかりではなく、新しい味を経験することを意識していたので、いろいろな味を知ることができた。何事も臆せず挑戦する気持ちよさを知ることができた。

今回参加して良かったなと思う点は友達の少ない私に新しく7人の友達ができたこと。最初は全員面識がなかったので、一緒に十日間過ごすことが不安だった。だが24時間をともにすると自然と距離も近づき、日本に帰って最初の夜は寂しかったくらいみんなのことが大好きになった。これは私にとって大きな出来事である。協力して小学校での授業やJapanese Dayの準備をしたのは大変だったけど一生の思い出になった。このワークキャンプでの経験は大学生活や今後あるかもしれない留学に、そして社会に出た時に役立てていきたい。自分でこの経験をターニングポイントにしていきたい。

やまざき　せいた
山﨑　晴大

活動を通して様々な経験を積むため、参加。
趣味はSUP、特技は空手。

フィリピンでの生活と自分の成長

今回のフィリピンへの派遣は、私にとって初めての海外で不安も大きくありましたが、活動を通してそれ以上に大きな収穫を得られたと感じるものになりました。特に衝撃を受けた出来事が2つあります。

1つ目は、現地の子どもたちとの空手の練習です。私は今回の派遣の目標として、「日本の文化である空手を現地で披露すること」を挙げていて、小学校で6年生に文化交流授業の一環として空手を披露した際に、クラス全員で一緒に練習することができました。正直、空手が現地の方々に興味を待ってもらえるか不安だったので、とても嬉しかったことを覚えています。その日の夜には子どもたちが私たちの宿泊先にやってきて、空手の練習をしようと誘ってくれました。嬉しかったと同時に、子どもたちの積極性にとても感動しました。日本ではなかなか経験できることではないことだと思うので、とても刺激を受けました。

また、ジャパニーズデイでは道着を着る体験をしてもらいました。私が空手を始めたばかりの頃、道着を着ている先輩たちがとてもかっこよく、早く着てみたいといと思っていたことをとても覚えています。子どもたちが興味津々で目を輝かせて順番を待っていてくれたのはすごく印象深く、道着を着てもらうことができて自分にとってもいい経験になりました。

2つ目はPangpangでの最終日です。子どもたちがダンスや歌を披露してくれました。泣きながら歌ってくれる姿を見て私も涙が出てしまいました。Pangpangに滞在したのは1週間という短い期間でしたが、子どもたちを中心にPangpangで多くの体

験をしたことがフラッシュバックし、トイレや風呂など日本とは全く違う環境にも慣れ始めた時期だったので、別れをすることが本当にさみしかったです。子どもから大人まで多くの人に「また帰ってきてね」や「日本に行ったら会おう」、「別れが本当にさみしい」と言われました。すごくストレートな言葉をもらいとても感動しました。私はこのような直球な言葉は恥ずかしさからなかなか言えないことですが、現地の方々との交流を通して自分の気持ちをありのままに伝えることの素晴らしさを知りました。簡単なことのようでなかなかできないことなのでこの経験を通して気持ちを表現することを意識して日本での生活を送りたいと思います。

今回の派遣を通じて、自分自身のやってみる精神が成長したと感じました。今回の派遣に応募したことも、そのきっかけの1つだと思います。初めての海外をワークキャンプという形で行くことで、旅行では体験できない多くの貴重な体験をすることができました。現地の方と同じように生活をする、ボランティアワークをする、スポーツをする、学校に行く、景色を見る、カラオケをするなど当たり前のようで、とても刺激的でした。大きなバケツにたまった水を桶ですくってかぶるという現地の入浴スタイルや、トイレットペーパーの流せないトイレなども、次第に全く苦ではなくなりました。派遣後半には風呂に入ることを1日の楽しみにさえしていました。マーケットや屋台でも最初は緊張でなかなか注文できませんでしたが、最終日にはショッピングモールを1人で行動できるまでになりました。また、バロットという孵化直前のアヒルの卵をゆでたまごにしたものも、派遣前は絶対に食べれないだろうなと思っていましたが、最終日には食べてみようと挑戦できました。美味しくはなかったですがとてもいい経験になり、些細なことですが自分の成長を感じました。

また、同じ西尾市内の仲間ができたというのも、とても大きな財産だと感じました。授業やジャパニーズデイ、食事などを通して、後半になるにつれて連携が深まっていったと思います。準備が少し足りなかったと感じる部分もありましたが、限られた中で現地の方々に楽しんでもらえたと思います。

Pangpangで生活をする中で、まったりとした時間の流れをとても感じました。休日には、朝7時から村に音楽が響くなど、日本では絶対にないような環境を体験することで、日本では常識だったことが、世界では必ずしもそうではないことを知りました。また、空手を現地の子どもたちに教える中で、どうしたら喜んでもらえるかなどを考えて実践していました。子どもたちが喜んでいる姿を見て、何かを発信することの楽しさをとても感じました。同時に、異文化に触れることの大切さも感じました。就職活動を控えている今、このような貴重な体験をできたことは、自分にとってとても大きなものになりました。市内の仲間と現地の方々と充実した10日間を過ごすことができて本当に良かったです。

稲吉（いなよし） 崇文（たかふみ）
西尾市役所 市民部
地域つながり課 主事

私にとってこの派遣は、とても特別な事業でした。私も学生時代、国際ワークキャンプの参加をきっかけに世界が広がり、同時に身近になりました。西尾市においても国際化が進み、外国人と接する機会は増えています。その時、将来の西尾市を担う青年たちに日本の常識だけで全て考えるのではなく、いろいろな角度から考えられるようになって欲しい。そもそも、たくさんの世界を知ってほしい！その目標のため、自分の立場や経験をフル活用し、新たにこの派遣を実施しました。この挑戦を、団員である「あおい」「しゅん」「すー」「せいた」「とこ」「はるき」「ひな」「みそら」、そして同じ引率者である「やす」と一緒に実現できて本当に良かったです。

身体を洗う桶の水、衝撃的なトイレ、バイクの喧騒、鳴り響く音楽。今までテレビの四角い世界だった場所に自分がいて、はじめは皆から不安や戸惑いも感じられましたが、自分から積極的に挑戦し、村の温かさ、子ども達の笑顔に触れ、あっという間に現地に馴染んでいく成長に驚きました。派遣で終わらせず、今後も皆の成長を期待しています！

最後に、現地で温かく迎えてくれたPangpangの皆や受入団体GIED、サポートしてくださった事業者（NPO法人NICE、JA西三河旅行センター）、特殊な海外派遣を理解し送り出してくださったご家族、その他協力して下さった皆様、本当にありがとうございました！

井口（いぐち） 育紀（やすのり）
特定非営利活動法人NICE
（日本国際ワークキャンプセンター）

国際ワークキャンプは、集まったメンバーで寝食を共にし、地域住民と一緒に活動していきます。『助けてあげる↘』という上からではなく、『一緒に→』というフラットな関係性が大事な要素です。この『一緒に』活動するからこそ、得られることはたくさんあります。自分自身で勝手に限界や常識の壁を作っていたことにも気づいたのではないでしょうか。

オンラインで繋がれる世の中だからこそ、実際に現地に行き、自分の目でその土地で行われていることを見て、自分の鼻でその土地の風土をかぎ、自分の耳でその土地の言葉を聞いて、自分の口でその土地の言葉を話し、食べ物を食べ、自分の肌で地域住民と触れ合う。このような経験が大事だと考えます。

思ったこと、感じたこと、考えたことは人それぞれ違うでしょう。でもそれは自分自身のフィルターを通して得た自分だけの経験です。人それぞれ違って良いんです。その経験を大事にしていってください。

Pangpangにいた時、地域の人たちはどんな接し方をしてくれたましたか？今度は自分の身の回りにいる外国籍の方にその経験を還元していってください。今後もこの事業を通して、そのような若者が増え、西尾市でカラフルな交流がたくさん生まれ、その中心に今回の1期生がいることを願っています。

SDGsの観点から見た本事業

外国人と接する機会の少ない現地の子ども達に、日本文化の紹介などを行うことで、互いの国際教育を図りました。

自分の常識や当たり前が通用しない世界を経験することで、国際感覚を身に着けた青年を育成し、多文化共生の社会を目指します。

現地の住民と生活や活動を共にするワークキャンプを通して、多様な価値観や文化の違いを豊かさとしたパートナーシップを目指します。

2022年度 西尾市青年国際ワークキャンプ派遣事業
第1期生 活動報告書

［主 催］

西尾市市民部地域つながり課

〒445-8501 愛知県西尾市寄住町下田22番地
ＴＥＬ　0563-65-2178
ＦＡＸ　0563-56-2175
E-mail　kouryu@city.nishio.lg.jp

［実施事業者］

西尾市国際交流協会

〒445-8501 愛知県西尾市寄住町下田22番地（地域つながり課内）
Ｈ　Ｐ　https://nishio-nia.jp/

特定非営利活動法人NICE（日本国際ワークキャンプセンター）

〒245-0061 神奈川県横浜市戸塚区汲沢8-3-1
E-mail　gw@nice1.gr.jp
Ｈ　Ｐ　https://www.nice1.gr.jp/